

社会の期待

- 国立大学等の本来の役割である「**教育研究の機能強化**」と「**地域・社会・世界への貢献**」
- 社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「**共創**」の拠点
- 多様なステークホルダーと積極的に関わり合い、新たな活動が新たな投資を呼び込むことで**成長し続ける真の経営体**

施設の役割と方向性

キャンパス全体を**イノベーション・コモンズ** (共創拠点) へ

産業界との共創

- ・ 共同利用できるオープンイノベーションラボの整備
- ・ キャンパスを実証実験の場として活用



他大学や企業等とのオープン・ラボ



構内道路を活用した実証実験

出典: <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/topics/view/1152>

教育研究の機能強化

- ・ 学修者中心に捉えた人材育成
- ・ 研究の活性化
- ・ 世界をリードする最先端研究の推進
- ・ 先端・地域医療を支える病院機能充実
- ・ 国際化のさらなる進展



学生同士のアクティブ・ラーニング



ICTによるコミュニケーション



国際寮における日常的な国際交流

地方公共団体との共創

- ・ 災害時にも活用できるインフラの強靱化
- ・ 地方創生の連携拠点整備
- ・ 地域との施設の相互利用



地元企業との交流会



地域への公開講座

ポストコロナ社会におけるオンラインと対面の**双方のメリット**をいかした**効果的なハイブリッド**にも対応

共通事項: ICT・省エネ・ダイバーシティ・フレキシブル・新たな日常・交流空間

課題と今後の取組

- 国立大学等の施設は、**全国各地に配置された知のインフラ**であり、最大限活用することが重要
- 現在の国立大学等施設整備5か年計画(H28~R2)では**老朽改善整備が目標の25%**にとどまる
- イノベーションの加速に不可欠な国立大学等施設について、次期計画では、効率的な施設整備による**老朽改善の加速化が必要**。あわせて、**施設マネジメントの推進と財源の確保が必要**

○次期国立大学法人等施設整備5か年計画における整備目標等

【老朽改善整備】 約785万㎡ (大規模 225万㎡ 性能維持 560万㎡)
 約6,000億円 (大規模 3,200億円 性能維持 2,800億円)

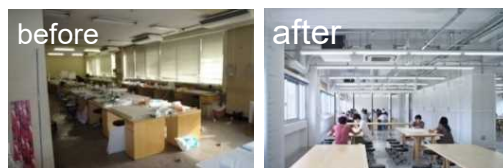
「戦略的リノベーション」による老朽改善で
 機能向上と長寿命化を図り、保有する施設を最大限に有効活用

長寿命化サイクルへの転換

既存施設を最大限有効活用するため、従来の改修サイクルを長寿命化のライフサイクルへ転換

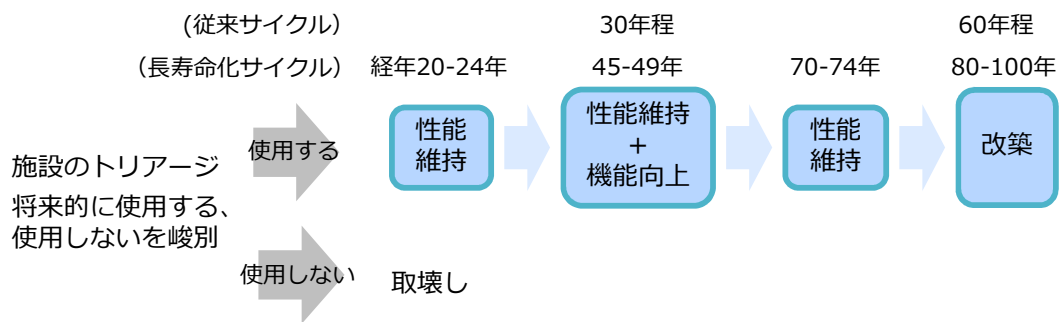
改修未実施施設の一掃

経年45年以上の大規模改修未実施の施設を
 全て改修する等老朽改善整備を実施



施設総量の最適化

全ての施設を改修するのではなく、老朽化した施設の一定割合を取壊し



【ライフライン更新】

・事故の未然防止及び災害時の教育研究の継続性の確保のため、おおむね法定耐用年数の2倍を超えるものを今後10年で計画的に整備

<5年間の整備量>

配管・配線： 約1,900km
 設備機器： 約1,800台 合計 約1,050億円

【新增築整備】

約30万㎡ 約1,020億円

・新たな教育研究ニーズへ対応するため、既存施設の有効活用等のみでは対応が困難で真に必要な施設に限り、新增築により整備



【附属病院整備】

約45万㎡ 約2,470億円

・先端医療・地域医療を支える拠点として、引き続き再開発整備を進めるとともに、新たな施設機能の確保など各大学の整備計画を踏まえて整備



整備目標：860万㎡ 約1兆500億円

(多様な財源を含む)

⇒ 老朽改善の加速化をはじめとした必要な予算の確保が重要

○ 戦略的な施設整備や施設マネジメントの推進

保有面積の増大は維持管理費の増大につながることから、施設のトリアージ、施設の有効活用、全学的な体制の構築、適切な維持管理、カーボンニュートラルに向けた取組の推進（5年間でエネルギー消費原単位を5%以上削減）等に取り組む

○ 多様な財源の活用促進

自律的な経営の実現のためにも、国立大学等における多様な財源確保のための制度改正等、運用改善・事例の周知が重要

国立大学等が教育研究機能を強化・発揮することで、我が国の未来を拓き、我が国の成長・発展を支える

イノベーション・コモンズ（共創拠点）

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とは

- ・あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレイヤーが共に創造活動を展開する「共創」の拠点
- ・教育研究施設の個別の空間だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含め キャンパス全体が有機的に連携した「共創」の拠点
- ・対面とオンラインのコミュニケーションが融合し、ソフトとハードが一体となって取り組まれる「共創」の拠点

⇒多様な学生・研究者や異なる研究分野の「共創」、地域・産業界との「共創」の促進等により、教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や新事業・新産業の創出に貢献



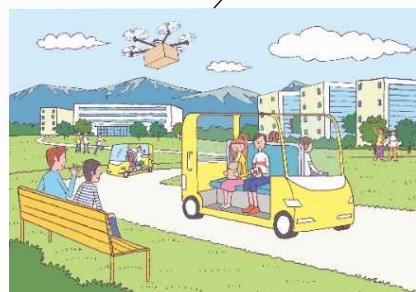
個別学修やアクティブ・ラーニング



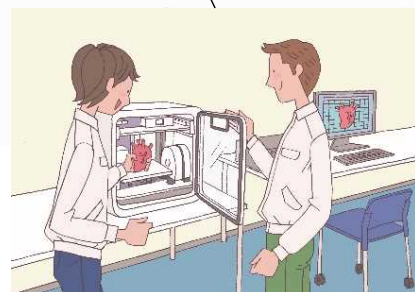
ICTを活用した国際交流



オープンラボでの産学連携



キャンパスを活用した実証実験



世界をリードする最先端研究



日常的な知的交流や人間関係の形成



公開講座などの地域貢献